

生活科

山 岸 朋 子
江 藤 里 佳

1 生活科における創発の学びとは

これまでの取り組み

生活科では、自分の思いや願いをもちながら「ひと」「もの」「こと」とかかわることを通して、豊かに感じる心を育むとともに、自立の基礎を養うことをめざして研究をすすめてきた。

昨年度の研究では、「ひと」「もの」「こと」と夢中になってかかわる活動や体験の中で、自分なりの思いをもって学ぶ場を設定し、集団の学びの中から「自分の思いを変容させる姿」や「自分なりにかかわりを広げたり深めたりしようとする姿」を追求してきた。特に、自分や友達のよさに気づき、そのよさを受け容れて自分の生活に生かすことに重点を置いて研究をすすめた。

その結果、自分の思いや願いを表現したり、友達の意見を聞いて反応することはできるようになってきた。また、友達のよさを自分の生活に生かそうとしている子どもも少なくはない。しかし、そのよさを認め受け容れることができず、自分の思いだけを通そうとする子がいるのも事実である。

実体験の不足

一方で、子どもがテレビやコンピュータ、本などから得ている知識はかなり豊富である。しかし、それらが生きて働く知恵にまでならず、単なる知識で止まっている場合が多い。幼児期に経験すべき実体験が不足しているため、感じる力が豊かでない子どももいる。学校生活でも、どっぷりと自然の中で遊んだり、じっくりと対象とかかわる経験に乏しいと感じることが多い。知らないということ素直に表現できない子どもや、失敗することを極端に嫌う子ども、経験や知識のないものに対して臆病になり、予測のつかない事態や失敗をおそれて自分から進んで活動に参加できない子どもも多い。これらは、今までに模索、葛藤しながら活動する経験や失敗する経験が少ないためと考えられる。

失敗を恐れる

そのような実態を受け、今年度の研究として生活科では、実体験を多く取り入れ、楽しんで「ひと」「もの」「こと」とかかわることができるようにし、知的な気づきを引き出したい。知的な気づきとは、思いや願いをもって活動する中で得た知恵であると考え。その知的な気づきを自覚したり、友達に伝えたりすることで、友達のよさや自分の変容に気づき、これからの自分の生活に生かそうとするようになってほしい。

そこで、今年度の生活科における創発の学びを

生活科における

創発の学び

自分なりの思いや願いをもって 「ひと」「もの」「こと」とかかわる活動や体験を通して 思いを変容させ
そこで得た知的な気づきを自分の生活に生かしていこうとすること

ととらえ、実践をすすめていくこととした。

2 生活科における「学びを深めようとする思い」とは

「学びを深めようとする思い」

生活科では、活動をただ楽しむだけで終わらせるのではなく、学びが一人一人の子どもにとって価値あるものになることを大切にしたい。そこで、生活科における「学びを深めようとする思い」を

- ①自分なりの思いや願いをもって 対象とかかわろうとする
- ②自分のよさや友達のよさに気づき 自分の生活に生かしていこうとする

とした。

自分なりの思いや願いをもって対象とかかわろうとする

自分のよさや友達によさを自分の生活に生かしていこうとする

「学びを深めようとする思い」を具体的な授業場面で考えると、以下のような様相であるといえる。

①自分なりの思いや願いをもって 対象とかかわろうとする

- ・「自分でやってみよう」「自分でできるようになりたい」という思いや願いをもち 五感を使って体験を楽しもうとする
- ・自分なりの思いや願いをもとに模索・葛藤し 工夫して活動しようとする

②自分のよさや友達によさに気づき 自分の生活に生かしていこうとする

- ・自分が「ひと」「もの」「こと」と試行錯誤しながら活動した様子やかかわりの中で得た気づき・喜びなどの思いを 絵や文 言葉など様々な方法で表現しようとする
- ・自分や友達によさを見つけ 伝えようとする
- ・自分なりのよさを発揮しながら 活動しようとする
- ・「ひと」「もの」「こと」と直接かかわることで得た思いや知的な気づきを自分の生活に生かしていこうとする

これらの思いが育まれるように学習活動を展開していく。

3 「学びを深めようとする思い」を育むために

(1) 共通体験の場を設定する

共通体験から得る共通の学び

子どもの実態として、小さい頃に経験しておかなければならないことを経験していない子どもが多い。「やりたいことはするが、やりたくないことはしない」とか、「できることはするが、できそうもないことはしたくない」という考えの子どももいる。これは、共通体験の不足からくると考え、その対策として「まずやってみよう」という考えを大切に、共通体験の場を設定することにした。なぜなら、それぞれの思いで好きなことだけをして、思いを共有することは難しいと考えたからである。一度共通体験の場を用意して活動することで共通の学びの中から様々な知的な気づきが引き出され、学びが一人一人の子どもにとって価値あるものになるのではないかと考えた。

(2) 「ひと」「もの」「こと」とのかかわりにおいて学ぶことを大切にする

「ひと」「もの」「こと」と直接かかわることを通して学びを深める

学びを深めるためには、「ひと」「もの」「こと」と直接かかわる活動を多く取り入れたい。対象と直接かかわる活動を取り入れることで、五感を使って対象とかかわり、知的な気づきを生むことができると考える。例えば、実際に人の話を聞いたり、ものを見たり触ったり、においをかいだり、一生懸命何かに取り組んだりすることもその一つである。それらの直接体験を通して、子どもは様々なことに気づき、学びを深めることができるであろう。そして、その気づきを自分の生活に生かしていくことができると考えた。

2年間を見通した活動計画

また、これまでの学びを次で生かすことができるような活動を取り入れ、2年間を見通した活動を展開することで、「ひと」「もの」「こと」とのかかわりが深まり知的な気づきを引き出すことにつなげたい。さらに、1年生と2年生が、それぞれの学年に応じたねらいをもちながらかかわり合うことで、お互いが自分なりの思いや願いをもって活動し、自分や友達によさに気づき、学びを深めることができるようになることを考える。

(3) 子どもの思いを交流し 自分の生活に生かしていこうとする

友達によさを 見つける

授業の中で、友達によさを見つける場を設ける。どっぷりと学びの対象とかかわることは、決して独りよがりになることではない。その時間の知的な気づきをお互いに交流させ、友達によさを見つけ認め合う場を設けることで、自分と友達の思いやよさを比較することができる。そして様々なよさにふれることで、自分の思いが変容し、自分の生活に生かしていこうとすることができる。

自分のよさに気づく

交流の場で表現した自分の思いを友達から認められることで、自分のよさに気づくことができ、それが自信となって次の活動への意欲となる。

知的な気づきを 引き出すために

知的な気づきを引き出すためには、教師が子どもの知的な気づきに共感したり、子どもに実証性のあるフィードバック（実物を見せる・その場へ行く・五感を使う など）をしたりすることが大切である。そうすれば知的な気づきが子どもの中で具体的に明らかになり、自分の生活に生かしていく助けとなるのではないかと考えた。

4 実践例 - 1年 -

(1) 単元名 がっこうとなかよし ～たんけん はっけん ふぞくしょう～

(2) 目標

- ・学校の様子に関心を持ち、進んで調べ、楽しく安心して生活を送ろうとする。
- ・学校の楽しさやひみつを、自分なりに伝えることができる。
- ・学校の施設の様子が分かり、学校生活が様々な人に支えられていることに気づく。

(3) 指導にあたって

① 題材のとらえ

子どもが一日を過ごす学校。清掃やたてわり活動、校区别集会などで他の教室に行く機会も増え、子どもの行動範囲は、徐々に広がっている。学校生活にも慣れ始めたこの時期に学校を探検する活動を通して、自分たちが生活している学校を見つめ直し、今まで知らなかった学校のひみつを発見したり、普段何気なく見ていたことの意味に気づいたりすることができると思う。

学校を探検し、教室や施設の位置やそれぞれの特徴を知ることにより、校内を自由に活動することができたり、必要に応じて利用したりすることができるようになる。また、探検をしながら、それぞれの教室で生活していたり、教室や施設を利用していたりする他学年や先生などの様子を見ることになる。そして、それらの人とかかわることで、学校生活や教室、施設利用の仕方を学んだり、自分たちの将来の姿を想像したりすることもできる。また、学校には多くの人がかかわり合っていることに気づく機会になると考える。

学校探検は、子どもが集団で探検活動を行う初めての経験になる。探検の仕方や約束、人との接し方など、これから探検活動を行っていく時に心がけなくてはならないことについて考えていくことも大切である。そして、発見したことを広めるための表現の仕方について経験を増やすきっかけにもなると考える。

② 本単元における「学びを深めようとする思い」

○自分なりの思いや願いをもって対象とかかわろうとする

・学校探検に興味を持ち、進んで自分なりの発見をしようとする。

○自分のよさや友達のよさに気づき 自分の生活に生かしていこうとする

・探検して気づいたことや感じたことを、自分なりの言葉で伝えようとする。

・友達の発見を知ること、友達の発見の観点を生かしながら、自分も新たな発見をしようとする意欲をもつ。

・学校探検で知ったことを、これからの学校生活に生かしていこうとする。

③ 「学びを深めようとする思い」を育むために

入学して3か月がたち、学校の中の様子が少しずつ分かってきている1年生ではあるが、何度も検診や測定で訪れているにもかかわらず、けがをして手当てを受けたくても、「保健室」という名称とその場所を結びつけて考えられない子どももいる。その一方で、すべて学校のことは知ったつもりの子どものも多い。そこで、単元の導入では、2年生に学校のひみつを教えてもらう活動を取り入れたい。2年生と一緒に活動することで、校内の案内に不安がある子どもでも、安心して活動に入ることができるであろう。また、2年生からとっておきの学校のひみつを教えてもらうことで、自分たちが知らないことがまだまだたくさんあるということに気づき、自分たちも学校のひみつを見つけたいという意欲が高められると考える。

学校探検をする際には、クラス全体で同じ場所を探検する活動と、自分が調べに行きたい場所に探検に出かける活動を組み合わせて取り入れたい。自分が探検していない場所の発見を友達から知らされても、実感をもって受け取ることは難しい。また、子どもの発達経験上、自分のやりたいことを選んで行うという活動はこれまでに多く経験してきているが、学校という集団生活において、みんなで一緒のことをする中からそれぞれが学んでいくという経験は、欠かすことのできない重要な要素である。そこで、みんなで同じ場所に探検に行き、友達それぞれの発見を知る機会を多くもち、自分も探検した場所の発見を交流し合うことによって、自分とはちがった見つけ方やとらえ方があることに気づかせたい。そして、自教室だけではなく、できる限りその場所へ出かけて行き、子どもが実際に見て感じるができるようにしたい。また、場所や環境の様子だけでなく、そこでの「ひと」とのかかわりをもつことができるような活動も工夫していく。それにより、実際の学校生活において生きてはたらく知恵を獲得できるのではないかと考える。そして、探検の場や発表の場で、それらを繰り返し、一つの探検で得たものを次の探検に生かしていくことができれば、いろいろな角度から「もの」を見つめたり、「ひと」とかかわり合いながら活動を行うことができるようになるのではないかと考える。

4) 単元計画 (総時数9時間+課外)

主な活動と内容

評価のポイント

1 2年生と学校探検をする

- 2年生に学校のひみつを教えてもらおう
 - ・体育館に旗が入っている算数セットがあるんだって
 - ・初めてわかったことがたくさんあったよ
 - ・2年生っていろんなことを知っているんだな
 - ・もっと附属小のひみつを探してみたいな

2年生と一緒に学校探検をすることを通して探検の楽しさを知り 自分たちでも学校探検をし学校のひみつを見つけようという意欲をもつことができる

2 みんなで学校探検をし 学校のひみつを見つける

- 保健室のひみつを見つけて 保健室となかよしになろう
 - ・保健室にはベッドがあるよ
 - ・戸棚の中にはたくさん薬が入っているよ
 - ・養護の先生が保健室のひみつを教えてくださいな
 - ・学校で元気にすごしたいな



保健室のひみつを進んで探そうとする

養護の先生の話聞き 元気に学校生活を送ろうとする

- 体育館のひみつを見つけて 体育館となかよしになろう
 - ・2年生が言っていた算数セットの箱があったよ
 - ・いろんな道具があるな
 - ・不思議な機械もあるよ
 - ・ピアノがあるよ ハンドルがついているのはどうしてかな
 - ・体育のいろんな道具を使ってまた楽しく体育の勉強をしたいな

体育館のひみつを進んで探し 友達に伝えようとする

- 図書室のひみつを見つけて 図書室となかよしになろう
 - ・図書室にコンピュータがあるよ
 - ・おもしろそうな本がたくさんあるよ
 - ・本を借りるときにはどうしたらいいのかな
 - ・図書室には司書の先生がいるんだ
 - ・種類ごとに本が分けてあるんだな

図書室のひみつを進んで探し 図書室に親しもうとする

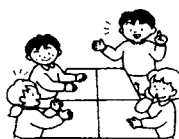
- コンピュータールームのひみつを見つけて コンピュータールームとなかよしになろう
 - ・図書室にもあった大きなテレビがあるよ
 - ・コンピュータがとつてもたくさんあるよ
 - ・使ってみたいな
 - ・6年生に教えてもらったら 使えたよ
 - ・休み時間にもコンピュータールームに来てみよう



コンピュータールームのひみつを進んで探したり 6年生にコンピュータを教えることでも 6年生やコンピュータと親しもうとする

3 自分で学校探検をし 学校のひみつを見つける

- 探検したところを学校の地図にまとめよう
 - ・学校の地図で1年2組を見つけたよ
 - ・みんなで探検した場所が分かったよ
 - ・まだまだ知らないところがありそうだよ
- まだ見つけていない自分だけの附属小のひみつをさがそう
 - ・家庭室には洗濯機があるよ
 - ・理科室と音楽室は2つずつあるよ
 - ・附属小にはたくさんのひみつがあったよ
 - ・まだまだ知らないことがあるかもしれないな
 - ・いろんな部屋で勉強するのが楽しみだな
 - ・もっと学校となかよしになりたいな



自分なりの思いをもち ねらいを絞って学校探検をしている

学校探検をして見つけたことやなかよしになったことを自分なりに工夫して伝えようとしている

探検して見つけたことを今後の学校生活に生かそうとしている

(5) 本單元における授業の実際と考察

ここでは、「自分なりの思いや願いをもって対象とかかわろうとする」「自分のよさや友達のよさに気づき 自分の生活に生かしていこうとする」という「学びを深めようとする思い」を育むことができたかを考察していく。

「学びを深めようとする思い」を育むための手だて

- ☆共通体験の場を設定する
- ☆「ひと」「もの」「こと」とのかかわりにおいて学ぶことを大切にする
- ☆子どもの思いを交流させる

をもとに、

- ① 2年生と一緒に学校を探検する活動
- ② みんなで一緒に同じ場所を探検する活動
- ③ 一人一人が場所を選択して探検する活動

という3つの活動について、学習の流れに沿って、子どもの活動の様子やふりかえりカードの記述などをもとに検証していく。

① 2年生と一緒に学校を探検する活動に関する考察

- ☆「ひと」「もの」「こと」とのかかわりにおいて学ぶことを大切にする
- ☆子どもの思いを交流させる

4月の「なかよし集会」をスタートとして、「サツマイモの苗植え」「枝豆の種まき」「よもぎ団子のプレゼントとなかよしランチ」など、たてわりグループのペア（2年生はパートナーとよんでいる）で行う活動を中心に2年生との交流学习を重ねてきた。1年生にとって2年生とともに活動することは、自分たちだけでは少し難しいことが体験できる、知らなかったことを知るきっかけとなる、安心して活動に取り組むことができるなどの利点がある。そこで、本單元においても、学校探検への関心や意欲を高め、探検の視野を広げることをねらって、2年生と一緒に学校を探検する活動を単元の導入に取り入れた。

たくさんの場所を次々まわることは、探検する楽しみを味わうことはできても学校と深くかかわりをもとうとすることにはつながっていかないと考え、2年生には、あらかじめとっておきのひみつを一つか二つ教えてくれるよう頼んでおいた。また、探検時間も10分間とし、焦点を絞って探検を行うことができるようにした。

1年生との学校探検を前に2年生が行った話し合いの場で、「1年生にとびきり難しいひみつを伝えるかちょっと簡単なひみつを伝えるか」が話題になった。その時に、「自分が1年生の時は知らなかったことがいっぱいあったけれど、今ではいろんなことが分かるようになった。だから、あんまり難しいことを伝えるよりも、ちょっと簡単なことを伝えれば、1年生は自分たちでだんだんいろんなことが分かっていくんじゃないか」という考えが出され、2年生の探検に対する取り組み方が決まっていた。

実際の探検の場では、1、2年生合同で探検の約束を確認した後、探検に出発した。2年生は、1年生の時に学校探検をして強く心に残ったことを教えたり（写真1）、普段の学校生活の中で伝えたいと感じる場所に案内したりしていた（写真2）。1年生も、普段からかかわりをもっている2年生なので、自然に分からないことを尋ねたり、他の場所にも行きたいと頼んだりしながら、探検を進めていた。



写真1 体育館にはね…



写真2 ざりがにがいるよ

2年生との探検の後、2年生が教えてくれたひみつや自分が見つけたもの、感じたことなどを出し合った。

T：どんなひみつを教えてもらったの

C：家庭室は 2年生がこの間よもぎ団子をつくってくれた所だと教えてもらいました
水道がたくさんありました

T：2年生は家庭室という部屋でよもぎ団子をつくってくれたんだね

C：図工室には セロハンテープや色とりどりの画用紙があって 教室とはぜんぜんちがってました

T：教室と比べてみたらちがうことが見つかったんだね

- C：セロテープなら教室にもあるよ
 C：とってもたくさんあったの そこがちがうの
 C：私は 体育館には算数セットや楽器や椅子がたくさんあると教えてもらいました
 C：私も一緒
 算数セットを見たかったけれど 中に入れなかったから見るできませんでした
 ……
 T：2年生と探検してどんな気持ちになったのかな
 C：楽しかったです
 C：また教えてもらいたいです
 C：2年生はいろんなことを知っていました
 C：中に入れなかった所があったから 自分たちでも探検してみたいです
 C：探検したい (多数)
 T：どこを探検したいの
 C：体育館・家庭室・コンピュータールーム・保健室…
 T：みんなで探検するのか一人で行くのかどっちがいい
 C：みんなで行きたいな だって心配だから

2年生との探検を通して、1年生は、自分が行ったことがなかった場所を発見したり、普段利用している場所もちがった面から見ると新たな発見があることに気づいたりした。そして、学校探検の視点を少しもつこともできた。探検が10分間という限られた時間であったため、「もっと詳しく調べたい」「今度は自分たちでも探検してみたい」という思いが強まった。

探検して見つけたことや感じたことをクラス全体で交流することで、自分が知らないことがまだまだたくさんあることを知り、学校探検への意欲が高まることになったと考える。しかし、それぞれの思いを交流した後、見つけたひみつをまとめたふりかえりカードには、見つけたひみつや2年生との活動の様子はかかれていたが、話し合いの中には出てきた「これからしてみたいこと」に関する記述は、発言に比べるとあまり多くは見られなかった(表1)。子どもの思いが表出されるようなふりかえりカードの項目の工夫が必要であった。

	探検した場所	してみたいこと		探検した場所	してみたいこと
1	図書室〇②◎	2年生と休み時間に散歩をしたい	19	2年生の教室〇②	
2	図書室〇 ◎	テレビを見てみたい	20	家庭室〇②	
3	家庭室〇		21	保健室〇	
4	ベランダ〇②◎	広そうだから入ってみたい	22	体育館〇②	
5	欠席		23	家庭室〇②◎	ひみつがまだありそうだから掃除の時にも教えてほしい
6	プランニングルーム〇		24	3、4年生の教室〇②	
7	コンピュータールーム〇②◎	動かし方がわからないから知りたい	25	コンピュータールーム〇②◎	見てみたい
8	体育館〇②◎	どこに置いてあるか聞きたかった	26	理科室〇②	
9	図工室〇②		27	図書室〇②◎	お兄さんが優しく教えてくれたどんな本があるか見てみたい
10	図工室〇②		28	図書室〇 ◎	本が読みたい
11	廊下〇		29	家庭室〇②	
12	道徳室〇②◎	何をする部屋か教えてもらいたい	30	体育館〇②	
13	体育館〇②		31	図工室〇	
14	図書室〇②		32	家庭室〇②◎	中が少ししか見られなかったので見てみたい
15	体育館〇 ◎	本当にあるかいつか見つける 体育の時にしてみる	33	ランチルーム〇	
16	欠席		34	体育館〇②	
17	図書室〇 ◎	本を借りてみたい	35	西階段〇	
18	体育館〇②		36	理科室〇②	

ひみつを見つけた子ども〇…34人 2年生とのかわりについて記述してある子ども②…23人
 自分でしてみたいことについて記述してある子ども◎…13人
 表1 「2年生と学校探検」のふりかえりカード

2年生との学校探検を単元の導入に取り入れたことは、学校のことを知っているつもりの子どもにとっても、まだ学校生活に慣れていない子どもにとっても、学校のひみつを調べてみたいという気持ちが膨らむ大きなきっかけとなったと考えられる。しかし、この活動は2年生にとっても学びにつながるものでなければならぬ。今回は「なかよし集会」の際に時間の関係でできなかった活動を、改めて設定したものであるが、活動を行う際には、1、2年双方の学びについてさらに考えて設定していく必要がある。

② みんなで一緒に同じ場所を探検する活動に関する考察

- ☆共通体験の場を設定する
- ☆「ひと」「もの」「こと」とのかかわりにおいて学ぶことを大切にする
- ☆子どもの思いを交流させる

2年生と一緒に学校探検を行った後は、クラスみんなで一つの場所を探検する活動を取り入れた。みんなで探検する場所は、保健室、体育館、図書室、コンピュータールームとした。体育館は、2年生が昨年行った学校探検の中でとても注目を集めた部屋であり、今年も多く2年生が1年生にひみつとして紹介すると考えられた。図書室やコンピュータールームは、その存在は知っていてもその部屋の中に入って活動する機会はまだまだもっておらず、一度みんなで探検することで、休み時間の過ごし方など学校生活の幅が広がると考えたからである。また、6月という時期に学校探検を行うねらいとして、学校における「もの」や「こと」とかかわるだけではなく、学校の中に生活する「ひと」と自分自身の学校生活とのかかわりにも気づいてほしいと考え、保健室や図書室の活動を取り入れ、まず保健室からみんなで探検することにした。

ア みんなで保健室探検

保健室探検では、教室であらかじめ保健室について知っているひみつを出し合ったあと、保健室へ探検に出かけた。

- T : 保健室にはどんな時に行くのかな？
- C : けがをした時
- C : おなかが痛い時
- C : 頭が痛い時
- C : 体をみてもらう時
- T : 保健室のどんなひみつを知っているかな？
- C : ばんそうこうがある
- C : 赤チンがある
- C : ガーゼがある
- ⋮
- C : 包帯がある
- C : けがをしたときに書くカードがある
- ⋮
- T : みんなで保健室にひみつを見つけに行こう

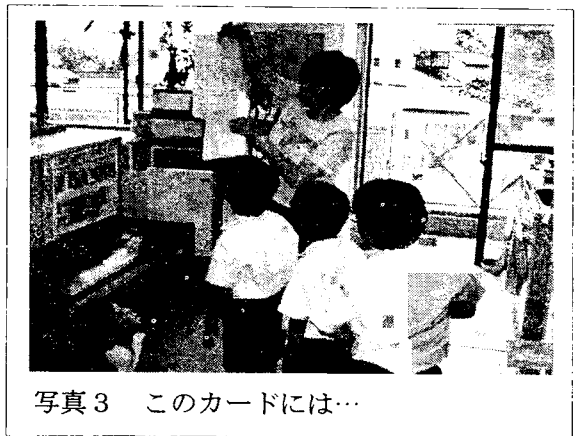


写真3 このカードには…

子どもは保健室に入るとすぐに教室で話に出ていたひみつがあるか、保健室の中を探し始めた。そのうち、教室でひみつとしてあげられていたものの中で見つからないものが出てきたため、養護の先生に質問してみることにした。

- T1 : 先生に聞いてみたいことがある人？
- C : 注射はありますか
- T2 : 学校に注射はありません
- C : よかった 安心した
- C : けがをしたとき先生が忘れないように書くカードはありますか
- T2 : 見てごらん これはみんながけがをしたり体の調子が悪くなって保健室に来たときに書くカードです 6年生まで使います (写真3)
- C : 小学校のことが全部書いてあるんだ
- C : ひきだしには何が入っていますか
- T2 : 健康診断票です みんなが高校生になるまで使う大切な記録が入っています
- ⋮

その後、保健室の利用などについて、話をしていただいた。これまで、様々な検診や体重測定などでよく訪れていた保健室ではあったが、改めて探検することで、保健室の役割や養護の先生と自分とのかかわりにも気づいたと考えられる。ふりかえりカード(表2)や探検後の交流で

も、養護の先生が保健室の一番のひみつであるという考えが見られた。また、今後の保健室利用についても、具合が悪い人がいる場所だから静かにしなければならない、できれば元気に過ごして利用しないでおきたいなどの思いが出された。

保健室探検を学級全体で行うことで、自分で見つけた発見が友達に認められるという経験や、友達の見つけた発見を受け入れることが自分の新しい発見につながるという経験をもつことができた。また、学校探検を「ひと」とのかかわりにおいてもとらえるという視点も加えることができたと考える。子どもの思いを広く生かすことも大切であるが、ある程度制限を設けた中で活動を組むことで、子どもが対象に深くかかわろうとする思いが強められると感じた。

	ひみつ	「ひと」	これから		ひみつ	「ひと」	これから
1	○	♡もっとなかよしになりたい		19	○		
2	○	♡やさしい先生がいるから安心		20	○		
3	○	♡具合が悪い時に見てもらいたい		21	○		
4	○	♡		22	○		
5	欠席			23	○		
6	○		◎静かに行こう	24	○		
7	○			25	○	♡一番すごいのは先生	◎具合の悪い人がいるから静かにしよう
8	○		◎砂遊びで元気に	26	○	♡	
9	○	♡		27	○	♡先生がいて安心	
10	○			28	○		
11	○		◎ベッドを使わないようにしたい	29	○		
12	○	♡先生がいるとほっとする	◎また見つけたい	30	○	♡	◎けがをしたら先生に言って行こう
13	○			31	○		
14	○	♡やさしかった		32	○	♡	
15		♡		33	○		
16	欠席			34	○		
17	○			35	○	♡やさしくしてくれた	
18	○			36	○	♡やさしいからまた行きたい	

ひみつを見つけられた子ども○…33人 保健室の先生とのかかわりについて記述してある子ども♡…14人
これからしてみたいことについて記述してある子ども◎…6人

表2 「みんなで保健室探検」のふりかえりカード

イ みんなで体育館探検

保健室探検の次は、体育館を探検した。2年生に「体育館に算数セットがある」「不思議な機械がある」などのひみつを教えてもらったが、用具室などにあるため、2年生との探検では実際に見ることができなかった。

体育館では、2年生に教えてもらったひみつが本当にあるかどうかを確かめることに終始していた。2年生に教えてもらったひみつを探す中で、「ねえみんな来て、機械があるよ」「ねえ、算数セットはどこにあるの」と子ども同士が知らせ合ったり聞き合ったりする様子が見られるようになった。そして、見つけたひみつを交流する場では、算数セットの中を見てみたいという思いが強くなり、みんなで開けてみることにした。

- C：(箱に) 運動会って書いてある
- C：エプロンじゃないか
- C：旗や(旗を振る動作)
- C：応援や 棒をつけるんだ
- C：運動会の赤組のだね
- C：応援団のはちまきも入っている(応援の動作)
- C：いいな
- C：6年生になったらできるよ
- C：私のお兄ちゃんは 4年生だけど応援団になっていたよ
- T：算数セットの中には 運動会の道具が入っているんだね
- C：体育と関係あるからかな

初めて小学校の運動会を経験した1年生にとって、応援団はあこがれである。箱の中身から運動会を想像し、動作化して表現したり、今後の学校生活と結びつけて思いを巡らせている様子が見られた。

また、体育館のステージ下にたくさんの椅子が入っている様子を見た子どもは、数を数えながらその多さに驚いていた。そして、「どうして体育館に椅子があるのか」という疑問をきっかけに、体育館の使われ方へとつながっていった。

C : 体育の時間には椅子は使わないね
 C : でも 入学式や卒園 (業) 式に
 C : そう お母さんが座っていた
 C : その時に ピアノも使っていたね
 C : かしわつ子集会の時にもピアノを使ってみんなで歌を歌ったよ
 C : この間の全校朝礼でも
 T : 体育館は体育の時にだけ使うのかな
 C : みんなが集まるときにも使うよ
 T : 実は他にも使うことがあって (休み時間の使用割りを見せる)
 C : 教室にも同じものが貼ってあったよ
 T : 休み時間にも使える時があるんだよ
 C : 遊びに来たいな いつ使えるの
 ……
 C : 鬼ごっこをしに来ようよ
 C : ボール遊びもしたいね
 T : 体育館となかよしになれたかな
 C : まだ
 C : いっぱい遊んだらなかよしになれそう

子どもの発言やふりかえりカード (表 3) から、体育館で見つけたひみつ (2年生に教えてもらったひみつ) を自分たちの生活と関連づけていこうとする姿を見ることが出来る。子どもが個人で探検したのならば、「見つけた」「ねえきいて、〇〇があったんだよ」にとどまってしまうがちであるが、体育館というその場所で、みんなで実物を見ながら一緒に思いを出し合うことで、「もの」「こと」を自分とのかかわりにおいてとらえることができたと考えられる。

また、前時の保健室探検で部屋と先生のつながりを意識していたため体育館に行けば体育の

先生がいると思っていた子どもたちにとって、必ずしも先生がいるとは限らないのではという疑問をもつことにもなった。

ただ、2年生から教えてもらったひみつが1年生にとってはかなり興味深いものであり、探検の意欲を高める効果はあるが、そのひみつを自分の目で確かめることが探検の目的になってしまい、自分たちで新しい発見をする余裕がなくなってしまう。「体育館は天井が高い」「電気にカバーがしてある」「使うものは別の部屋に片づけてある」「それはどうして」など、体育館の特性に子どもの目がいくような教師の働きかけが必要であった。

	ひみつ	「ひと」	これから		ひみつ	「ひと」	これから
1	○算数セット			19	○算数セットの中		◎鬼ごっこがしたい
2	○算数セットの中		◎はちまきをしたい	20	○算数セットの中		◎昼休みにドッジボールがしたい
3	○たくさんの椅子		◎ドッジボールをしたい	21	○算数セットの中		◎こおりおにをしたい
4	○算数セットの中			22	○算数セットの中		
5	欠席			23	○たくさんの椅子		◎長休みにボールで遊びたい
6	○算数セットの中		◎ボールで遊びたい	24	○算数セットの中		◎ボールで遊びたい
7	○算数セットの中		◎応援団ではちまきをしたい	25	○たくさんの椅子		◎今度は休み時間に遊びたい
8	○音を調節する機械		◎おにごっこをしたい	26	○たくさんの椅子		◎ドッジボールがしたい
9	○算数セットの中		◎バレーボールがしたい	27	○算数セットの中		◎お弁当を食べてみたい
10	○算数セットの中			28	○休み時間にも使える		◎ボール遊びをする
11	○算数セットの中		◎はちまきを使いたい ◎ドッジをしたい	29	○算数セットの中		◎ボールで遊んで友達を増やす
12	○算数セットの中		◎明日の休み時間に鬼ごっこ	30	○算数セットの中		◎休み時間にドッジボールがしたい
13	○算数セットの中		◎ボールで遊びたい	31	○算数セットの中	♡	◎バスケットがしたい
14	○たくさんの椅子		◎鬼ごっこをする	32	欠席		
15	○機械		◎ドッジボールがしたい	33	早退		
16	○すぐくいっぱい椅子		◎ドッジボールがしたい	34	○算数セットの中		◎ボール遊びがしたい
17	○算数セットの中			35	○ピアノ		◎はちまきをみんなで使いたい
18	○マイクの機械		◎鬼ごっこをしたい	36	○算数セットの中		◎長休みに鬼ごっこがしたい

ひみつを見つげられた子ども○…33人 先生とのかかわりについて記述してある子ども♡…1人
 これからしてみたいことについて記述してある子ども◎…28人
 表3 「みんなで体育館探検」のふりかえりカード

ウ みんなで図書室探検

知っている図書室のひみつを出し合ってから、図書室へ移動した。図書室に入るなり、ひみつを見つけ始めた。

C : DVDがある

C : みてみて こっちこっち

C : どこどこ

C : コンピュータ見つけた

C : (好きな本を手にする)

C : (座って本を読む)

しばらく自分たちで探検する時間を取った後、見つけたひみつを交流した。

C : (指で示して) あそこに 本を返すカードというのがあった

C : 床にシールが貼ってあった (シールをのぞきこんで確認)

C : (指で示して) むこうのたなのところに とっても大きなCDがあった

T : どれくらい大きかった?

C : 顔くらい (手で大きさを示してみせる)

T : みんなで大きなCDを見てみようか (CDの近くまで移動)

C : うわー大きい (驚きの声多数) 先生の顔よりも大きいね

C : (指で示して) あそこに小さい引き出しがある

T : 何だろうね (引き出しまで近づく)

T : カードが入っているね

C : あじさいもあるよ

C : あっちにも こっちにも

⋮

図書室探検では、図書館司書の先生の存在と自分たちの図書室利用とのかかわりについて気づかせたいという思いがあったので、子どもが見つけたひみつの発表が一段落したところで、図書館司書の先生を子どもたちに先生のひみつとして紹介した。司書の先生には、仕事の紹介と図書室利用の仕方について簡単に話していただくようお願いしておいた。

T1 : 先生に教えてほしいことがある人?

C : 図書室の本は図書室でしかよめませんか

T2 : 本を借りることができます カードがあつて…

T1 : 名前が書いてあるね

C : みんなのカードがある

T1 : 借りるのが楽しみだね

C : もう代本板はありますか

⋮

C : 1回に借りられるのは1冊ですか

⋮

C : 何日借りられますか

⋮

C : 返すときはどうすればいいですか

⋮



写真4 本がある場所を教えてください

子どもの関心が本を借りることに集まり、司書の先生へ質問が続いた。そして、最後に司書の先生に本の読み聞かせをしていただいた。自分たちの質問に丁寧に答えてもらったり本を読み聞かせてもらうことで、司書の先生に対して親しみをもつと同時に図書室に対する親しみも増したようである。これは、ほとんどの子どもがふりかえりカード(表4)に、「本の借り方を教えてもらったので自分で本を借りて読んでみたい」という思いを記述していることから見て取れる。また、次に図書室を訪れた時に、司書の先生に読み聞かせてもらった本のシリーズの話を探して読んだり、自分の読みたい本の場所を司書の先生に尋ねる姿も見られた(写真4)。「図書室のひみつを進んで探し図書室に親しもうとする」という点では、そのねらいに迫ることができたと考える。

しかし、体育館の活動の例でも述べたが、本時でも「図書室ならではの特性に気づく」という点では十分ではなかった。司書の先生の紹介を子どもの思考の流れと切り離して設定してしまったため、子どもの意識が一度とぎれてしまい、教師から与えたものとなってしまった。子どもの発言の中に「あじさい」が出てきた時や、引き出しのカードが話題になった時に司書の先生に話をつなげば、もっとスムーズに話題に入っていたであろう。これは、授業者の「ひと」をクローズアップしたいという思いが強すぎたため、「ひと」を「もの」「こと」とからめてとらえ

ることが弱まってしまったためと考えられる。子どもの思いは、1時間の学習で完結するのではなく、今後の学校生活の中で次第に現れてくるものもあるという大きな視野も含めて学習を組み立てることが必要であった。

	ひみつ	「ひと」	これから		ひみつ	「ひと」	これから
1	○カード	♡	◎本を借りたい	19	○学年の色のカード		◎本を読みたい
2	○柿そうな本		◎本を借りたい	20	○本を借りられるカード	♡	◎本をいっぱい借りたい
3	○本が借りられる		◎本を借りたい	21	○顔より大きいCD		◎本を借りたい
4	○本を借りるとなかよし		◎本を借りたい	22	○床にシール		◎本を借りたい
5	欠席			23	○アサガオの本		◎アサガオの本を読みたい
6	○本がいっぱい		◎6年間で全部借りたい	24	○代本板とカード		◎本を読みたい
7	○本の借り方		◎毎日本を借りたい	25	○いろいろな本		◎本を借りたい
8	○カードの色で1年生	♡	◎本を借りたい	26	○本がいっぱい	♡	◎本を借りたい
9	○本を借りられる	♡	◎本を借りたい	27	○コンピュータ		◎コンピュータを使いたい
10	○大きなテレビ		◎本を借りたい	28	○大きなテレビ		◎本を借りたい
11	○本がいっぱいある		◎ゾロリの本を借りたい	29	○大きなテレビ		◎本を借りたい
12	○テレビとビデオ	♡	◎本を借りて家で読みたい	30	○大きいCD	♡	◎本を借りたい
13	○テレビ		◎本を借りたい	31	○大きいテレビ	♡	◎本を借りたい
14	○大きいCD		◎本を借りたい	32	○学年の色のカード		◎本を借りたい
15	○カードがいっぱい		◎本を借りたい	33	欠席		
16	○大きいテレビ		◎本を借りたい	34	○カード		◎10さつ本を借りたい
17	○いろんなカード	♡	◎先生ともっとなかよしになりたい	35	○あじさい		◎あじさいの世話をしたい
18	○コピー		◎本を借りたい	36	○本		◎本を借りたい

ひみつを見つけられた子ども○…34人 先生とのかかわりについて記述してある子ども♡…9人
 これからしてみたいことについて記述してある子ども◎…34人

表4 「みんなで図書室探検」のふりかえりカード

エ みんなでコンピュータールーム探検

コンピュータールームの探検では、コンピュータールームに入るとすぐ、コンピュータの前の椅子に座り、マウスを手にとったりキーボードをさわったりしていた。そのうち、コンピュータの台数を数え始めたり、まわりにある大型テレビや電話などの機器にも目がいくようになった。

コンピュータールームのひみつを交流する場では、見つけたひみつを出し合った後、当然ではあるがコンピュータを使ってみようという思いが強くなり出された(表5)。コンピュータを使った経験がある子どもはいたが、学校の機器は家庭で使っているものとは異なっており、誰かに使い方を教えてもらわなければ使えないということがはっきりした。

- T: コンピュータを使える?
 C: 使えない
 T: どうする?
 C: 大きなお兄さんやお姉さんに教えてもらったらできると思う 5年生とか6年生とか
 T: 2年生は?
 C: 2年生はコンピュータを使うのが難しいと言っていたから教えてもらえないと思う
 T: 誰に教えてもらったらコンピュータが使えるようになるかな
 C: 掃除場の6年生に頼んでみる
 T: 自分たちでお願いできるかな?
 C: 自分で言える

6年生には、あらかじめコンピュータの操作を教えてもらえるよう頼んであったのだが、1年生が自分たちで他の人に働きかけて教える機会をもつことも必要だと考え、掃除の時間に自分たちで頼んでみる活動を取り入れた。掃除が終わり教室に戻って来ると、それぞれの子どもが、「6年生が教えてくれるって言うてくれた」「お絵かきを教えてくれるんだって」と、笑顔で話していた。

	ひみつ	「ひと」	これから		ひみつ	「ひと」	これから
1	○CPが49台ある		◎CPを使ってみたい	19	○大きなテレビ		
2		♡	◎CPを使ってみたい	20	○CPが49台ある	♡	
3			◎CPで勉強したい	21	○大きなテレビ		◎CPで勉強したい
4	○いろんなCPがあった		◎CPを使ってみたい	22	○マウスが違う		◎CPを使いたい
5	○掃除場の近くにあった		◎CPを使ってみたい	23	○CPが49台ある		◎CPを使いたい
6	○CPが49台ある	♡	◎CPを使ってみたい	24	○テレビやスクリーンがあった		◎お絵かきをしたい
7	○机の下にもあった		◎CPを使ってみたい	25	○CPが49台ある	♡	◎CPの先生に教えてもらいたい
8	○大きなテレビ		◎CPを使ってみたい	26	○大きなテレビ	♡	◎教えてもらって一人でやってみたい
9	○印刷機が2つ		◎CPを使ってみたい	27	○たくさんのCP		◎絵を描いてみたい
10	○CPが49台ある		◎CPを使ってみたい	28	○CPが49台		◎CPを使ってみたい
11	○CPが49台ある		◎CPを使ってみたい	29	○CPの先生がいる	♡	◎CPの先生に教えてもらいたい
12	○マイクがあった		◎CPでゲームをしたい	30	○たくさんCPがある	♡	◎6年生に教えてもらいたい
13	○マウスが違う		◎CPを使ってみたい	31	○テーブルの角にスイッチがある		◎CPを使って勉強したい
14	○ダンゴ虫みたいなマウス		◎CPでゲームをしたい	32	○CPが49台ある		◎CPを動かしてみたい
15	○CPが49台ある		◎CPでゲームをしたい	33	○CPのよこにボタンがあった		◎CPを使ってみたい
16	○月曜日にCPが使える		◎CPで勉強をしたい	34	○テレビ電話がある		◎使い方をマスターしたい
17	○中が広い		◎CPをしたい	35	○世界とつながる電話		◎みんなで使ってみたい
18	○大きなテレビ		◎CPにさわりたい	36	○たくさんのCP		◎CPを使ってみたい

ひみつを見つけられた子ども○…34人

「ひと」とのかかわりについて記述してある子ども♡…7人

これからしてみたいことについて記述してある子ども◎…34人

表5 「みんなでコンピュータールーム探検」のふりかえりカード

6年生と一緒にコンピュータを使う活動は、たてわりグループでペアになり行った。毎日掃除で顔を合わせている6年生に教えてもらうことで、1年生も安心して活動に取り組めた。また、6年生の分かりやすい説明や自由自在に操作する姿を見て、尊敬の気持ちも高めたようである(写真4)。6年生にとっても、一人の1年生とペアで活動を行うことで、1年生に対する親しみが増したようで、1年生がコンピュータールームを使用できる休み時間に一緒にコンピュータを使う約束をしてくれた6年生も多くいた。また、その後の学校生活におけるたてわり清掃やたてわり活動の中で、1年生に対する接し方や声のかけ方に変化が見られた。

コンピュータールームは、その部屋でコンピュータなどを使って活動してこそ、その特性に気づき、よりかかわりを深めていこうという思いを高められる場所であった。同じような探検が続いたこと、見つけれられるひみつに限られたものであったこともありコンピュータールームのひみつ探しをした時間は、形式的な探検を感じさせる場面もあった。しかし、いったんその部屋の機器に触れ、活動を始めると、それは生き生きとした探検に変化した。授業者が探検場所の特性をよく知り、その場所にあった活動を加えていくことが大切であると感じた。

③ 一人一人が場所を選択して探検する活動に関する考察

☆「ひと」「もの」「こと」とのかかわりにおいて学ぶことを大切にする
☆子どもの思いを交流させる

みんなで同じ場所を探検する活動を終えた後、学校の白地図を提示した。子どもは、まず地図の中で自分の教室の場所を探し、その後、自分たちが探検した場所を探していた。そして、学校にはまだ探検していない場所や知らない場所やがたくさんあることに気づいた。これにより、また別の場所も探検したいという思いが高まってきた。

みんなで一つの場所を探検すればその場所についての気づきを共有することができる。しか



写真5
6年生と一緒にコンピュータ操作

し、時間的な問題から探検できる場所の数は限られてくる。タイプのちがう4つの場所をクラス全体で探検する機会をもち、それぞれの子どもがある程度の探検の視点をもつことができるようになったと考え、ここからは一人一人が自分の行きたい場所に探検に出かける方法をとった。

1回目のフリー探検では、家庭室や第1理科室に探検に行く子どもが多かったが(表6)、自分の思いで探検するのではなく、友達について一緒にまわる子どもの姿も見られた。また、大人のいない場では教室にあるものにさわることができないため、目で見える範囲のひみつ見つけに終わってしまった子どもも多かった。1回目のフリー探検の後、ふりかえりカードを書き、カードが仕上がった子どもから順にカードを見せ合う時間をとった。友達のふりかえりカードの絵から探検した場所の様子や伝えたいことを想像したり、その場所のひみつを自分が知っているときはあいづちをうち、知らないときは、詳しく尋ねるなどの様子が見られた。

2回目のフリー探検では、1回目に探検した場所を白地図に書き入れ、探検した子どもがそのひみつを簡単に紹介した後、探検に出かけた。前回友達が探検した場所に出かける子どもや、まだ、誰も行ってない場所を探して探検する子どもがいた。今回は、子どもが行きそうな場所をまわり、子どもだけではさわってみることができないものを手に取る場をもったり、子どもだけでは入れない場所に一緒に入るなどの手だてをとり、実際に探検した場所とできるだけ深くかかわることができるように心がけた。

フリー探検を終えた後、白地図に探検した場所を記し、見つけたひみつを発表した(写真6)。楽器がたくさん置いてあるという話を聞き、レッスンルームへの興味が高まったり、毎日牛乳を運んできてくださる校務士さんとお茶、パントリーのつながりを知り驚いたりしていた。発表の準備の時間をもたないままの発表だったが、探検した直後ということもあり、心に残ったことを中心に自分の思いや発見を伝えることができた。発表の準備や工夫を凝らした発表会も様々な表現方法を知るための大切な手段ではあるが、今回はタイムリーに発表することで、興味深く話を聞くことができた(表7)。



写真6 探検して見つけたひみつを発表

	場所①	ひみつ①	場所②	ひみつ②		場所①	ひみつ①	場所②	ひみつ②	
	1	家庭室	洗濯機	家庭室	ガス台10台	19	家庭室	洗濯機	パントリー	牛乳・校務士さん
	2	1理	みみず	家庭室		20	理科室	いす	家庭室	ものさし
	3	1理	顕微鏡・池の水	家庭室	料理の道具	21	家庭室	料理をする	欠席	
	4	1理	ざりがに・めだか	パントリー	校務士さん	22	道徳室		2理	双眼鏡
	5	1理	顕微鏡・みみず	パントリー	木・校務士さん	23	家庭室	冷蔵庫の中の野菜	家庭室	洗濯機・乾燥機
	6	1理	望遠鏡	レッスンルーム	大きな太鼓	24	家庭室	洗濯機・食器・水道	1理	めだか
	7	家庭室	洗濯機	家庭室	テレビ4台	25	レッスンルーム	ホワイトボード	パントリー	お茶・牛乳・校務士さん
	8	1理	水道	パントリー	牛乳の冷蔵庫	26	プランニング	幼稚園の本	家庭室	テーブルが変身
	9	家庭室	洗濯機・茶碗	パントリー	牛乳の冷蔵庫校務士さん	27	1理	ざりがに	家庭室	洗濯機
	10	家庭室	洗濯機・火	パントリー	牛乳とお茶・校務士さん	28	ランチルーム	ピアノ	欠席	
	11	家庭室	テレビ4台	パントリー	校務士さん	29	家庭室	急須	パントリー	校務士さん
	12	1理	みみず	レッスンルーム	小太鼓	30	1理	みみずのみいちゃん	レッスンルーム	大きなバイオリン
	13	1理	フラスコ	パントリー	お茶・牛乳・校務士さん	31	1理	丸いガラス	2理	ガス
	14	1理	ざりがに・たにし	パントリー	草刈りマシーン	32	家庭室	洗濯機	家庭室	水道
	15	家庭室	水道・火	レッスンルーム	大きな太鼓	33	欠席		欠席	
	16	家庭室	ひきだし・食器	2理	太鼓大・小	34	家庭室	洗濯機とボタン	2理	重なった黒板
	17	家庭室	茶碗	レッスンルーム	大きなバイオリン	35	家庭室	ふしぎな椅子	2理	楽器
	18	家庭室	皿・コップ	音楽室	いろんな楽器	36	欠席		欠席	

ひみつを見つけられた子ども①…33人 ②…30人
表6 「フリー探検①②」のふりかえりカード

	一番なかよしになった場所	友達の話聞いてなかよしに なりたかった場所		一番なかよしになった場所	友達の話聞いてなかよしに なりたかった場所
1	家庭室	レッスンルーム	19	コンピュータールーム	体育館
2	コンピュータールーム	3年4組	20	コンピュータールーム	家庭室
3	図書室	家庭室	21	第2理科室	レッスンルーム
4	コンピュータールーム		22	図書室	レッスンルーム
5	図書室	第2理科室	23	家庭室	パントリー
6	コンピュータールーム	第2理科室	24	コンピュータールーム	レッスンルーム
7	家庭室	音楽準備室	25	コンピュータールーム	レッスンルーム
8	コンピュータールーム	レッスンルーム	26	コンピュータールーム	レッスンルーム
9	コンピュータールーム	レッスンルーム	27	コンピュータールーム	レッスンルーム
10	図書室	道徳室	28	コンピュータールーム	パントリー
11	コンピュータールーム	レッスンルーム	29	コンピュータールーム	第2理科室
12	コンピュータールーム	1の2	30	コンピュータールーム	パントリー
13	パントリー	第2理科室	31	図書室	コンピュータールーム
14	コンピュータールーム	レッスンルーム	32	保健室	第1理科室
15	家庭室	第1理科室	33	欠席	欠席
16	第2理科室	道徳室	34	欠席	欠席
17	コンピュータールーム	図書室	35	体育館	レッスンルーム
18	コンピュータールーム	第1理科室	36	欠席	欠席

表7 「がっこうとなかよしのまとめカード」

(6) 単元を終えて

本単元では、みんなと一緒に「ひと」「もの」「こと」とその場でかかわることで感じたことや気づいたことを大切にすること、また、それをまわりから認められることで「学びを深めようとする思い」を育むことができると考え、みんなと一緒に体験すること（共通体験の場）を意識的に設定した。

単元を通して、子どもの学校生活は大きく変化を見せた。その一つは、休み時間の行動範囲が広がったことである。いつも決まった友達と砂場遊びやお絵かきをしている子どもが多かったのだが、体育館やコンピュータールームの休み時間使用割りを見ながら誘い合って出かけたり、図書室へ読書に出かけたりなど、それぞれの子どもが声を掛け合いながら教室の外へ向けて活動するようになった。また、自分の教室以外の場所や先生に対する関心も増してきた。つまり、教室という狭い範囲からいろいろな興味関心が外に向けて開かれてきたのである。これは、「学校生活を楽しむ」ことにつながっていくと考えられる。

また、「ひと」「もの」「こと」の中でも、「ひと」とのかかわりにおいて学ぶことを取り上げて学習を進めてきた。できるかぎり「ひと」とのかかわりを含ませて学習を進めようとしたのであるが、次第に無理が生じてきた。子どもの活動の中には「ひと」を媒介とせず、「もの」や「こと」とじっくり向き合うことで生まれてくる思いや気づきもある。それをしっかりと見極め、より効果的な「ひと」「もの」「こと」との出会い方を考えていくことが必要である。

4月の学校散歩に続き、本単元で改めて学校探検を行ったのであるが、学校探検の活動はこの単元で終わるのではなく、今回の学習をきっかけとして広がっていくものであるととらえている。朝のスピーチのテーマに「ちょっと見つけた学校のひみつ」を設けるなど、学校に目が向く活動を取りいれながら、今後も子どもが学校に対して自ら働きかけていくことができるように心がけていくことが大切であると考えられる。